

3分で分かる!

知らないうちに損する情報セキュリティ対策レポート⑤

東邦通信システムの「お客様のネットワークの安全・安心を見直す運動」

「お客様のネットワークの安全・安心を見直す運動」とは・・・

これから増えると予測されているインターネットセキュリティ被害からお客様をお守りするために立ち上げられた、東邦通信システムの社内プロジェクトです。みなさまの会社の大切な情報を、巧妙な手口で攻撃してくるフリのハッカーや情報詐欺師、ウィルスなどのあらゆる脅威からお守りする有益な情報をお届けします！



被害多発⑤ ネットバンキングの詐欺サイトで被害多発！！

(1) あなたは見破れますか？

件名：三井住友カード【重要】



重要なお知らせ
昨今、一部のセキュリティの脆弱なネットショップなどよりクレジット情報やパスワードなどが漏えいする事件が発生しております。VpassIDおよびパスワードを他のサイトと併用している場合には、漏えいした情報より、悪意のある第三者によるネットショッピングでの悪用の可能性もございます。VpassIDおよびパスワードは他のサイトでは使用せずに、定期的にご変更いただきますようお願いいたします。VpassIDおよびパスワードのご変更はこちらをご覧ください。

→Vpass 情報照会・変更

このようなメールが皆さんのパソコンに届いたことはありますか？実はこのメール、三井住友カードの詐欺サイトに誘導する詐欺メールなんです！本文中のリンクをクリックすると出てくるのが右のページです。どこが本物のページか見分けることが出来ますか？実はフィッシング被害では、詐欺に引っかかったと気づかないうちに被害に合うケースが殆どなんです！！

The screenshot shows a website designed to look like the official Vpass ID registration page. It features the VISA logo and the text '三井住友VISAカード'. The main heading is 'Vpass ID・パスワードの登録'. Below this, there are several input fields for registration details: '会員番号' (Member Number), 'カード有効期限' (Card Validity Period), '生年月日' (Date of Birth), '3桁の番号' (3-digit number), and '電話番号' (Phone Number). The page also includes a sidebar with navigation links like 'インターネットサービスVpassメニュー' and 'Facebook'.

～三井住友カードの詐欺メール・詐欺サイト～

参考URL

<https://www.smbc-card.com/mem/cardinfo/cardinfo8090411.jsp>

(2) では、どうすればいいの？

怪しいメールが来た場合、メールの本文からサイトにアクセスしないでください！でも、怪しいメールかどうか判断するのは難しいですよね！実は、怪しいサイトへのアクセスをブロックする方法があります！(次回に続く)

3分で分かる!

知らなまや損する情報セキュリティ対策レポート⑥

東邦通信システムの「お客様のネットワークの安全・安心を見直す運動」

「お客様のネットワークの安全・安心を見直す運動」とは…

これから増えると予測されているインターネットセキュリティ被害からお客様をお守りするために立ち上げられた、東邦通信システムの社内プロジェクトです。みなさまの会社の大切な情報を、巧妙な手口で攻撃してくるプロのハッカーや情報詐欺師、ウィルスなどのあらゆる脅威からお守りする有益な情報をお届けします!



被害多発⑥ 巧妙化するネットバンキング不正送金! 法人には倒産リスクも!

(1) 法人の不正送金被害は、全国銀行協会も「保証対象外」!

不正送金の被害は、これまで個人が中心でしたが、ここ最近では法人においての被害が増加しています。

個人に関しては預金者保護法で一定条件のもと保護されています。

しかし、法人の場合は預金者保護法は適用対象外となっているのです。

(2) 不正送金で資金ショートした場合、黒字倒産のおそれも!

不正送金によって資金がショートすれば、黒字倒産となるおそれもあります。

経営に直接影響する喫緊の課題と言えるでしょう。

巧妙化するネットバンキングの不正送金問題 - 法人には倒産リスクも

被害を防ぐために

こうした不正送金の被害。まず個人に関しては預金者保護法で一定条件のもと保護されている。預金者に過失がなければ全額が補償される。

逆を言えば、過失があれば個別対応となり、補償を受けられない場合もあるわけだ。全国銀行協会の調査では、9割以上が補償対象となっているが、注意が必要だろう。ラックの西本氏は、「まずは銀行の指示に従い、対応を講じておくことが重要」と話す。

より注意が必要なのはむしろ法人だ。法人の場合は個人と異なり、預金者保護法は適用対象外。それに不正送金の被害は、これまで個人が中心だったが、最近では法人においても被害が発生している。

万が一、不正送金によって資金がショートすれば、黒字倒産となるおそれもある。経営に直接影響する喫緊の課題だ。

セキュリティ専門家が対策として勧めるのは、ほかの作業には用いない「オンラインバンキング専用端末」を用意すること。脆弱性対策やマルウェア対

参考: 情報セキュリティニュース「Security Next」
<http://www.security-next.com/048711/4>

(3) 不正送金はどうやって行われているの?

国内における不正送金のパターンは、マルウェアによってオンラインバンキングの表示画面を改ざんし、情報を騙しとる攻撃が主流。第二暗証や合い言葉など、重要な情報を預金者から騙し取り、それらの情報を用いて不正に口座を操作するやり方です。改ざんされたサイトは本物そっくりにできていて、もはや人の目で真偽を確かめるのは恐らく不可能な状態になってしまっているのです。

(4) では、どうすればいいの?

こまめに口座の残高と振込先をチェックしましょう。また、人の目では見破られないような巧妙な手口には、事前に防げるように、しっかりと対策しましょう。悪質なサイトや疑わしいサイトへのアクセス制限を設ける方法があります。(次回に続く)